

地域の障がい児に対する支援体制と中核機能としての体制確保に関する 取組の実施状況

報告者：こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 管理者 足立 朋子

所在地：大分県豊後大野市犬飼町田原1414-1

1. はじめに

児童発達支援センターなかよしひろばでは、「児童発達支援センターガイドライン」に基づき、地域の中核的役割を担うべく、4つの中核機能を中心とした支援体制を整備・実践しております。本報告書では、豊後大野市における当センターの具体的な取組状況についてご報告いたします。

2. 中核機能ごとの取組内容

(1)幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

- ・ 専門職(保育士、公認心理師等)による多職種連携支援を実施。
 - ・ 個別支援計画に基づいた個別療育および小集団療育を提供。
 - ・ 保護者との定期的な面談や、保護者向け支援プログラム(ペアレントトレーニング、保護者座談会等)を実施し、子育てに対する安心感と自己効力感の向上を図っている。
 - ・ 家庭と一体となった支援を大切にし、家庭環境や養育状況も考慮した支援方針を共有。
 - ・ 年に4回、兄弟児など家族も一緒に参加出来る行事を開催し、心理士を交えて保護者が気軽に集い、日々の子育てや発達支援に関する悩みや情報を共有できる機会を設けています。
-

(2)地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

- 支援方針の立案に関する助言や、課題のある事例に対する対応方法の提案を行っている。
- 関係機関との合同ケース会議への参加、事業所向けの研修会を実施し、地域全体の支援力向上を推進。
- 豊肥地区連絡会を開催し、顔が見える関係性を構築。各事業の困りや取組の情報共有。

(3)地域のインクルージョン推進の中核機能

- 保育所・幼稚園・小学校等との連携を強化し、障害のある子どもが地域の集団に安心して参加できるよう、支援調整を実施。
- 必要に応じて、園や学校への訪問支援を行い、配慮事項や支援方法に関する具体的な提案を提供。
- 地域啓発活動(講演会・研修会)を通じ、インクルーシブ教育・共生社会への理解促進に努めている。

(4)地域の発達支援に関する入口としての相談支援機能

- 保護者・関係機関からの初期相談を受け付け、発達に関する不安や課題に対し、専門的視点から対応。
 - 電話・面談・訪問など柔軟な相談体制を整え、早期の気づきと支援への円滑な接続を図っている。
 - 必要に応じて、他の関係機関(医療・福祉・教育)との連携により、最適な支援体制へとつなげている。
-

3. その他

①研修の実施

・キャリアパス研修年9回、事業所内研修(事例検討)2回、法人内他事業所研修、強度行動障害支援者養成研修、育ちのミカタ児発版検討研修に希望者参加、他、外部研修に希望職員が随時参加できる体制を整えています。

②地域関係機関との連携体制

・自立支援協議会 児童支援部会参画

③自己評価・外部評価の実施

・年1回の自己評価・保護者評価・外部評価を実施し、結果を事業所ホームページにて公表しています。

課題と今後の展望

- ・ 専門職の人材確保・育成は継続的な課題であり、関係機関とのネットワークを活用した人材交流や研修機会の充実が必要。
- ・ 地域内でのインクルージョン推進にあたっては、さらなる関係機関連携と啓発活動が求められる。
- ・ 今後も「地域の子どもたちの発達支援のハブ」としての機能強化を目指し、質の高い支援体制の構築に努めてまいります。

4. おわりに

本センターは、引き続き地域に根ざした支援を展開し、子どもとその家庭が安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。
